

受講者と共に成長

市村工務店(山形)

助成金 公開型社内大学を開講

市村工務店(山形市、市村清勝社長)は、昨年度受賞したきらやか産業賞の助成金を活用し、公開型社内大学「イチカレッジ」を開講した。人材育成を通じた地域貢献が目的。12日夜に同社で行われた開講式で、学長を務める市村社長は「受講することで皆さんの成長につながると信じている。そうできるような大学にしていきたい」と意欲を語った。



きらやか産業賞は技術や経営の革新、国際化、教育訓練の面で特に優れた実績を挙げている県内の中小企業などを顕彰している。同社によると、受賞後、助成金100万円をどのように活用するかの検討を開始。賞状に「人材育成に力を注いできた」旨の記述があり、当初は社員教育に活用しようと考えたという。しかし、同社に関わる人たちと一緒に成長したいという思いから、公開型社内大学を開講することに決めた。

人材育成を通じた社会貢献を目指して開講した公開型社内大学「イチカレッジ」

山形市・市村工務店

「緑化工場」で奨励賞

スラム
エム
マ

尾花沢事業所 敷地の25%に花や木

半導体デバイス製造の工一価された。表彰式は11月1日を中心として随時、草刈り

はんだ付け技術 伝えたい



普及へ山形で講習会

電機・電子機器の製造現場で技術者不足や技能継承が課題となっている「はんだ付け」の技術を普及させようと、NPO法人日本はんだ付け協会(滋賀県東近江市、野瀬昌治理事長)が13日、山形市の山形テルサで講習会を開いた。参加者は、はんだを溶かす適正温度やはんだごとの管理方法などを学んだ。写真。

電子基板に集積回路(IC)や回線を固定するはんだ付けは、作

ニホームを一新し、ロゴマークも新たに作るなどの取り組みを展開している。イチカレッジは誰でも受講できるが、ドレスコードとして同社のカラーである青色を身につける「遊び」を設定。会場のしつらえも青基調に統一した。

初回は同社のブランドイメージを指導している村尾隆介さんが講師を務め、「伝える 伝わる プレゼンテーションのテクニック」をテーマに講演。朝日町のブランド事業も手掛けた村尾さんは「総合的に見て山形は平和で幸せ。日本における

母校の尾花沢中で後輩にメール送る

おーばん社長

食品スーパー「おーばんホールディングス」(天童市)の二藤部洋社長(67)が

13日、母校の尾花沢市尾花沢中(佐藤幸正校長、30

業の自動化が進む一方、正確さが製品性能に影響するため、重要箇所については職人技術が欠かせないとされる。しかし、工場での人員削減、製造拠点の海外流出で20年ほど前から国内のはんだ付け職人が激減し、少ない技術者も定年退職を迎え、後進への教育も進んでいないという。

野瀬理事長は「はんだ付け技術の衰退は、日本のものづくり力の低下を招く」と、普及を目指して2009年に同協会を設立。講習会のほか独自の技能検定を全国で展開している。

講習会は県内初開催で定員30人がすぐに集まる人気ぶり。野瀬理事長が、作業の妨げとなることで先

7人)で講演した市内で創業した高を振り返りながら、メールを送った。

二藤部社長は機会が少なかつた972(昭和47)尾花沢市内に「おーばん」を創業し、で一番の肉屋に思いで店の名前を当時を回顧。ラの競争の中で「まのことを考え



起業や経営ノウハウ

来月11日

県企業振興公業育成セミナー、日、山形市の県援センターで開公認会計士で、など卸売業の「(台市)社長を務一氏が「よい経営」と題し講から中小企業ま実施した経験か